

1. 学術集会、学術講演会等の開催

1) 年次学術集会

第56回学術集会(会長:森田 潔)を当初2009年5月22日(金)~5月24日(日)開催として予定していたが、新型インフルエンザへの対応のため2009年8月16日(日)~8月18日(火)に延期した。場所:神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場。テーマ:「晴れの心。明日の麻酔科学へ。」。参加者数は、6721名、一般講演946題、特別講演・招待講演17題、招請講演26題、シンポジウム31題、PBLD4題、ワークショップ5題を企画し、行った。

第57回学術集会(会長:澄川 耕二)として2010年6月3日(木)~6月5日(土)福岡国際会議場・マリンメッセにて開催予定。メインテーマ「麻酔の安全・快適性の追及とフロンティアへの挑戦」。また、国際学会「第13回アジア・オーストラレーシア麻酔科学会」を併設する。

2) 支部の学術集会

各支部で合計8回の学術集会を開催した。

- ・2009年度第57回北海道・東北支部学術集会(主催:村川 雅洋) 2009年9月12日(土)
北海道会場:札幌プリンスホテル国際館パミール
東北会場:パルセイいざか
- ・関東甲信越・東京支部第49回合同学術集会(主催:宮坂 勝之) 2009年9月26日(土) 松本文化会館
- ・東海・北陸支部第7回学術集会(主催:小久保 荘太郎) 2009年9月5日(土) 名古屋国際会議場
- ・第55回関西支部学術集会(主催:西和田 誠) 2009年9月5日(土) 大阪国際交流センター
- ・中国・四国支部第46回学術集会(主催:藤田 喜久) 2009年9月26日(土)
川崎医科大学校舎棟 701号教室, 702号教室, 703号教室, M-800教室
- ・九州麻酔科学会第47回大会(主催:澄川 耕二) 2009年10月10日(土) 長崎ブリックホール

3) 教育講演の開催

第8回リフレッシュャーコースとして2009年8月16日~18日神戸ポートピアホテルで開催した。

2. 学会誌その他の刊行物の発行

1) 学会誌

「Journal of Anesthesia」誌を季刊で4号(Vol.23-No.2~Vol.24-No.1)を発行した。

2) 準学会誌

「麻酔」誌を月間で12号(Vol.57-No.4~Vol.58-No.3)を発行した。

3) 学会ニューズレター

社団法人日本麻酔科学会ニューズレターを季刊で4号(Vol.17-No.2~Vol.18-No.1)を発行した。

4) 学術集会抄録およびプログラム

社団法人日本麻酔科学会第56回学術集会プログラムを発行した。抄録に関しては、ホームページへの掲載、CD-ROMをプログラムに付し販売した。

5) 会員名簿および年次報告

2009年度会員名簿および年次報告をホームページに掲載した。

6) 教育講演テキスト

2009年開催の第8回リフレッシュコーステキストを発行した。

3. 学会認定医等の認定

1) 認定医等の新規認定, 資格試験の実施

2009年度は、標榜医の審査時期にあわせて、2009年4月・7月・10月・2010年2月の計4回認定審査を行い、2009年度新規認定医審査合格者数は532名となった。

第1回申請者：249名	合格者：219名（2009年4月1日認定）
第2回申請者：135名	合格者：115名（2009年7月1日認定）
第3回申請者：106名	合格者：82名（2009年10月1日認定）
第4回申請者：155名	合格者：116名（2010年1月1日認定）

<新規専門医>

2009年10月1日・2日、神戸ポートピアホテルで第48回麻酔科専門医認定試験が実施された。2009年度新規認定専門医試験合格者数は158名となった。

3科目（筆記・口頭・実技）	受験者数：159名	合格者：132名	合格率：83%
筆記	受験者数：16名	合格者：7名	合格率：44%
口頭	受験者数：2名	合格者：2名	合格率：100%
実技	受験者数：7名	合格者：6名	合格率：67%
筆記・口頭	受験者数：3名	合格者：2名	合格率：67%
筆記・実技	受験者数：3名	合格者：2名	合格率：67%
口頭・実技	受験者数：5名	合格者：5名	合格率：100%
再認定（口頭・実技）	受験者数：6名	合格者：3名	合格率：50%
再認定（口頭のみ）	受験者数：1名	合格者：1名	合格率：100%
再認定（実技のみ）	受験者数：1名	合格者：0名	合格率：0%

<新規指導医>

2009年10月26日、神戸事務局で2009年度麻酔科指導医新規認定の審査会が開催された。麻酔科指導医新規認定者は170名となった。

<新規認定病院>

2009年度は、申請状況に応じて4回認定審査を行い、2009年度新規認定病院数は63施設となった。

第1回申請施設：19施設	合格施設：19施設（2008年4月1日認定）
第2回申請施設：11施設	合格施設：10施設（2008年7月1日認定）
第3回申請施設：17施設	合格施設：17施設（2008年10月1日認定）
第4回申請施設：20施設	合格施設：17施設（2009年1月1日認定）

2) 認定医等の資格更新審査

2010年1月23日、神戸事務局で2009年度麻酔科指導医更新者の審査会が開催され、麻酔科指導医更新者は1,727名となった。2010年2月5日、東京事務局で2009年度麻酔科専門医更新者の審査会が開催され、麻酔科専門医更新者は447名となった。また2010年2月14日麻酔科認定医更新申請者の審査会が開催され、認定医更新者は97名となった。

指導医更新者：1,727名	指導医更新特例：31名
専門医更新者：447名	専門医更新特例：26名
認定医更新者：97名	認定医更新特例：9名

<認定病院更新>

2010年2月14日、2009年度麻酔科認定病院更新申請施設の審査会が開催された。麻酔科認定病院更新申請施設は149施設であり、140施設の認定となった。

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰

社団法人日本麻酔科学会学会賞5賞（山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・社会賞・松木賞）の2009年度受賞予定者の選考を行い、以下のとおり決定した。

1) 山村記念賞

西川 光一(群馬大学 大学院医学系研究科 麻酔神経科学 准教授)

「脳内の興奮と抑制バランスの変化が麻酔薬の鎮静、健忘作用、疼痛閾値を調整する」

2) 青洲賞

該当者なし

3) 若手奨励賞

(基礎)

里元 麻衣子(防衛医科大学校 再生発生学講座 大学院生)

「Neonatal Exposure to Sevoflurane Induces Abnormal Social Behaviors and Deficits in Fear Conditioning in Mice」

(臨床)

該当者なし

4) 社会賞

該当者なし

5) 松木賞

該当者なし

5. 研究及び調査の実施

1) 麻酔関連偶発症例調査

偶発症例調査2009(2009.1.1~2009.12.31):麻酔科認定病院1155施設を対象に行った。

2) 麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合、あるいは規格自体に問題がある機器に関して常時窓口を設け、ホームページを通じて常に情報を収集し、即時にフィードバックした。

3) 麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関する調査

医薬品適正使用ガイドライン第3版成人領域を作成し、HPに公開した。また、適応外の薬剤の要望、薬物乱用者の回復に向けた対応策を検討した。

4) Closed Claims Project の推進と研究

団体契約を結んでいる保険会社から得たデータ分析し、予防策を普及した。普及策として、『医療紛争ゼロを目指して』という冊子を作成した。

6) 周術期肺血栓塞栓症発症例調査

わが国における周術期肺血栓塞栓症の発生状況、予防法、治療法等に関して現状を把握するために、日本麻酔科学会認定病院 1116 施設において、2008 年の周術期肺血栓塞栓症（以下 PTE）に関するアンケート調査を行なった。結果として、634 施設から回答（56.8%）があり、324 例の周術期 PTE 発症を認めた。母集団を麻酔科管理件数（1,177,626 件）で除すると、2008 年周術期 PTE 発症頻度は 2.75 人（1 万症例対）であった。結果についてはホームページに掲載済みである。2009 年度は、アンケート調査を認定病院 1155 施設に送付した。

7) 麻酔台帳に関するアンケート調査

JSAPIMS（麻酔台帳）システム 2010 の開発に向け、麻酔科認定病院を対象に利用状況、偶発症例調査の提出方法、改善点等を問うアンケート調査を実施した。

8) 麻酔器の保守点検・始業点検に関するアンケート調査

麻酔科認定病院 1138 施設を対象に現状把握のための調査を実施した。500 施設からの回答があり、集計結果については、次年度公表予定である。

9) 手術室心肺蘇生事例報告書（ウツタイン様式手術室版）調査

心肺機能停止症例の詳細な解析や検討を行う為、2010 年 2 月に麻酔科認定病院 1155 施設を対象に調査を実施した。調査は継続中、2010 年度も引続き報告を受付ける。

6. 関連学術団体との連絡及び協力

1) 登録・派遣

日本学術会議、日本医師会、日本医学会、厚生労働省医道審議会標榜医審査会、日本専門医認定制度機構、大学評価・学位授与機構、日本外科学会、外科系医学会社会保険委員会連合、外科関連協議会、日本救急医療財団、日本蘇生協議会、3 学会合同呼吸療法士認定委員会、医療機能評価機構、骨髄移植推進財団等に委員を派遣し、各々の目的と事業に合わせ連携・協力。

2) 各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム、日本臨床麻酔学会市民公開講座、社団法人日本 ME 学会 ME 技術講習会・検定、財団法人日本救急医療財団「救急の日 2009」等、バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等、関連協力団体の学術集会および講習会、市民公開講座等を協賛・後援した。

7. 国際的な研究協力の推進

1) WFSA（世界麻酔学会連合）

理事および各種委員会委員を派遣した。

2) WFSA アジア・オーストラレーシア支部（AARS）

President（花岡一雄氏）、Treasurer（稲田英一氏）を派遣した。2010 年日本大会開催準備のために AACA 実行委員会を設置し、具体的な事業計画を立案した。

3) アジアン・シンポジウム

2009 年度アジアン・シンポジウムの実施、2010 年の日本大会開催に向けてアジア諸国との連携を深めた。

8. 普及啓発活動

学術集会、各支部学術集会開催時の日程で、「麻酔」をテーマに市民公開講座を 8 回開催し、正しい麻酔科学と医療の普及啓発を行う予定。また、麻酔資料館を開館し、博物館設立に向けて検討を行った。

9. その他目的を達成するために必要な事業

各種委員会活動を通じて事業目的を達成した。各委員会とも事業内容によって、実務を執行する専門部会を組織し、積極的な事業展開に努めた。詳細は各委員会議事録を参照。

1) 総務委員会

本年度は、中期・長期計画の作成、診療報酬についての対応、公益法人化に向けての準備・情報収集、周術期管理チーム推進事業、看護師等のコメディカルの業務拡大について検討した。その他、副会長選任選挙について審議・執行した。一昨年度からの懸案事項であった新システム導入については、会員管理、認定制度、学術集会抄録作成システム等の要件定義を議論し、外部設計の段階に入っている。学術集会事前登録システムを 2009 年 3 月 1 日より導入して以来、続いてコンビニ決済、演題登録の開発が進んだ。今後は、選挙の電子投票、認定申請、会員情報の登録変更について随時開発を行う。

麻酔科医適正配置プロジェクトでは、過去のマンパワー調査結果の分析と今後の調査方針について検討した。

公益法人化プロジェクトは、2010 年度申請に向け、定款、諸規程の検討を行なった。

社会保険プロジェクトでは、平成 22 年度診療報酬改定作業及び厚生労働省へ提出をした。また、会員からの診療報酬に関する質問の対応、学術集会時のシンポジウムを行った。

周術期管理プロジェクトでは、手術室内で診療行為にかかわる多職種（外科系医師、麻酔科医、看護師、薬剤師、臨床工学技士等）がチームとして機能するための基礎教育として、周術期管理テキスト 2010 年度版を作成した。また昨年度に引き続き第 3 回周術期セミナーを開催するための準備を行った。2009 年度選挙については、副会長選出選挙を実施した。

2) 財務委員会

予算・決算に関する事項、資産の管理・運営に関する事項、各種事業費に関する事項、その他財務に関する事項について協議、答申、執行する。予算書・決算書、貸借対照表・財産目録・正味財産増減計算書の作成、事業費・管理費のバランスおよび支部会計収支計算書と事業報告のチェック、基金・引当金の設定と管理、公益社団法人の会計基準に則った予算書の作成等を行なった。

3) 学術委員会

学術委員会では、機関誌・準機関紙の編集・発行に関する事項、学術集会のテーマ、運営に関する事項、麻酔科学用語に関する事項、学会賞に関する事項等を中心課題として協議、答申、執行した。各事項の調査、審議は内容に応じて専門部会に付託した。

麻酔科学用語集は電子化を検討し、冊子体の発行取りやめを決定した。

機関紙専門部会では、Journal of Anesthesia の引用を増やすため、昨年度に引き続き JA シンポジウムの企画運営、学術集会実行委員会では、学術集会の運営の方針、今後の学術集会プログラムの作成テーマの検討を行った。掲載論文の増加に伴い、2010 年より年 6 回発行とすることを決定した。学術集会実行委員会は、学術集会企画専門部会と学術集会運営専門部会を持ち、検討された事項は学術委員会に答

申する。学術集会企画専門部会は第57回学術集会のプログラムの作成を行った。9つの分野のワーキンググループで演者の選出、プログラムの検討、選定を行った。学術集会運営専門部会は、第57回学術集会については当日運営の方法等を議論し、2010年よりは廃止とした。

4) 倫理委員会

倫理委員会では、倫理規約の集約と倫理審査申請を制度化した。利益相反に関して、別組織を作ること等を答申した。

5) 教育委員会

教育委員会では、認定制度実施に伴う問題点の整備、第8回リフレッシュャーコースの実施、第9回リフレッシュャーコースの検討等を行った。認定制度実施にあたって問題点が多くなってきたため、5年後実施に向けて見直しを行うこととした。

認定審査委員会は認定医、専門医（第48回専門医認定試験実施）、指導医、認定病院の審査、認定を行った。

6) 安全委員会

安全委員会では、麻酔関連のリスクマネジメントに関する事項について協議、答申執行した。医療安全における問題の所在をあきらかにするために全国規模の実態調査を実施し、医療現場に向けた現状のアナウンスおよび改善・防止策のフィードバックを行った。データベース（統計調査）事業では、麻酔偶発症例調査、肺塞栓アンケートの実施・回収・解析、CCP（Closed Claims Project）報告書の検討を行った。ハード（機器）関連対策事業では、麻酔器の保守点検、定期点検の法律化の周知徹底、機器故障情報提供のホームページによる公表を行った。ソフト（手技）関連対策事業では、必要なガイドライン、安全な中心静脈カテーテル挿入・管理のための手引き2009の作成、医師賠償責任保険のあり方について検討した。薬剤関連事業では、麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン改定第3版の検討、適正薬剤乱用防止施策の検討（ポスター改訂版作成、薬剤依存症に関する相談内容の検討）、医薬品の保険適応要望を行った。また、本年度より、ベース統計調査の基となる、麻酔台帳の開発を安全委員会で検討することとした。開発に際しては、偶発症例WG、電子カルテを提供しているベンダー企業とも合同で議論を進めた。以上の事業への取組みにあたっては、5つのワーキンググループ（麻酔機器・手技安全対策ワーキンググループ、偶発症例（肺塞栓）ワーキンググループ、CCPワーキンググループ、医薬品適正評価対策ワーキンググループ、JSAPIMS（麻酔台帳）ワーキンググループ）を組織し事業を振り分けた。

7) 国際交流委員会

国際交流委員会では、国外の諸団体との交流を促進する目的に沿って事業を行い、海外留学制度の見直しを行った。AACA2010については、スカラーシップの審査を行い15名を選出した。WFSAとの交流活発化について検討し、活動を周知する目的で、WFSAニューズレターをJSAニューズレターに4回掲載した。また、第57回学術集会において、WFSAとJSAの関わりを議論する場として、WFSA理事3名を演者とするシンポジウムを立案した。

8) 関連領域検討委員会

関連領域検討委員会は、麻酔科医の活躍の場として、関連する領域を広くとらえ麻酔科医の活躍できるフィールドの広さを多くの医師、学生に周知し、かつまた学会としてよりよい業務環境を整える目的に沿って事業を行う事を目指している。本年度は、第56回学術集会（神戸）において、各領域での現状、問題点を挙げシンポジウム形式で公表した。

a.集中治療領域WGでは、学術集会時に集中治療を紹介した。また、集中治療に従事する麻酔科医の

実態を調査し、ICUの教育ガイドラインの見直しを検討した。

b.ペインクリニック領域WGでは、学術集会におけるペインクリニック領域の紹介、麻酔科領域におけるペインクリニックの分野のあり方について検討した。

c.緩和医療領域WGでは、麻酔科医による緩和医療教育への関与に関する実態調査ならびに、日本緩和医療学会における牽引的麻酔科医の人材育成について検討した。

9) 広報委員会

広報委員会では、本年度は、第56回学術集会時、医学生、スーパーローテータ企画の実施、ニューズレターの編集・発行に関する事項を行った。麻酔博物館企画委員会との連携を諮り、広報対象を明確に分け、広報委員会は一般の方や学生、研修医を対象とし、麻酔博物館企画委員会では会員を主な対象とすることとした。またホームページリニューアルWGでは新たなホームページを公開するべく、コンテンツの整理作業、デザインの検討を行った。

10) 支部管理委員会

支部管理委員会は、今年度活動を行わなかった。

11) 麻酔博物館企画委員会

麻酔博物館企画委員会では、2009年8月16日に麻酔資料館を開館し、開館式典を執り行った。その後も会員から麻酔に関する機器、器具、書類の収集を募りつつ、博物館開館に向けて今後の方針を検討した。

12) 利益相反委員会

利益相反委員会では、2009年11月からの厚生労働省科学研究費の申請に先立ち、利益相反規定を制定した。また、役員等にかかる利益相反施行細則を検討した。

13) 事務局

事務局の人事等、管理運営を行った。また、新システム導入に伴う作業管理を行なった。

以上